

定期作況報告（最終）

（第7号 平成27年11月20日現在）
地方独立行政法人北海道立総合研究機構
農業研究本部 上川農業試験場

1. 気象概況

《平成26年》

11月：平均気温は℃で平年より0.3℃高く、降水量は平年の77%、日照時間は平年の130%であった。

12月：平均気温は℃で平年より0.2℃高く、降水量は平年の84%、日照時間は平年の103%であった。

《平成27年》

1月：平均気温は℃で平年より2.6℃高く、降水量は平年の54%、日照時間は平年の81%であった。

2月：平均気温は℃で平年より2.2℃高く、降水量は平年の14%、日照時間は平年の122%であった。

3月：平均気温は℃で平年より3.1℃高く、降水量は平年の114%、日照時間は平年の104%であった。

4月：平均気温は℃で平年より2.3℃高く、降水量は平年の81%、日照時間は平年の117%であった。

5月：平均気温は℃で平年より1.6℃高く、降水量は平年の95%、日照時間は平年の124%であった。

6月：平均気温は℃で平年より2.1℃低く、降水量は平年の123%、日照時間は平年の72%であった。

7月：平均気温は℃で平年と同じく、降水量は平年の149%、日照時間は平年の104%であった。

8月：平均気温は℃で平年より1.1℃低く、降水量は平年の62%、日照時間は平年の105%であった。

9月：平均気温は℃で平年より0.6℃低く、降水量は平年の91%、日照時間は平年の101%であった。

10月：平均気温は℃で平年より1.6℃低く、降水量は平年の99%、日照時間は平年の82%であった。

本年の根雪終は4月2日で平年より12日早く、積雪期間は平年より18日短かった。耕鋤始（融雪剤散布圃場）は4月13日で平年より9日早かった。晩霜は平年より11日遅い5月25日であった（表1）。

以上、農耕期間の4月～10月についてまとめると、気温は4～5月が高く、6月以降は同等か低めに経過した。降水量は6～7月が多かった他は同等か少なめで8月が特に少なかった。日照時間は4～5月が多く、6月が少なく、7～9月が同等かやや多めで10月が少なかった。

5月から9月までの積算値は、平年に比べ平均気温が70℃低く、降水量は平年より3mm少なく、日照時間は9時間多かった。

平成26年11月から平成27年10月までの気象は表2のとおりである。

表1 季節表

	初霜 (前年)	降雪始 (前年)	根雪始 (前年)	根雪終 (月日)	積雪期間 (日)	降雪終 (月日)	耕鋤始 (月日)	晩霜 (月日)	初霜 (月日)	降雪始 (月日)
本年	10月7日	10月28日	12月2日	4月2日	122	4月15日	4月13日	5月25日	10月15日	10月13日
平年	10月10日	10月25日	11月27日	4月14日	140	4月30日	4月22日	5月14日	10月7日	10月25日
比較	△3	3	5	△12	△18	△15	△9	11	8	△12

注1) 本年は平26～27年の値。

2) 根雪始、根雪終、積雪期間、耕鋤始は比布圃場の観測値。平年は過去10か年の平均値。

3) 初霜、降雪始、降雪終、晩霜は旭川地方気象台による旭川市の観測値。
平年は過去10か年の平均値。

4) △印は平年に比べて早いあるいは短いを示す。

1) 水 稲 : 並

事由：播種は平年より1日遅い4月15日に行った。育苗期間中の天候は高温多照に経過し出芽は良好で、苗の生育は平年より進んだ。移植は平年より1日早い5月18日に行った。移植時の苗素質は平年並であった。

移植時からの低温・日照不足により植え痛みが見られたが、5月末の高温・多照により活着は良好であった。しかし、6月上旬の低温・日照不足により生育は大きく遅れ葉色も黄化した。6月20日の主稈葉数は平年より少なく、草丈も低く、 m^2 当たり茎数も少なかった。

6月下旬は低温・日照不足、7月上旬も低温となり生育はさらに遅れた。幼穂形成期は平年より2～3日遅く、止葉期は平年より5～6日遅かった。しかし、7月中旬の高温・多照、下旬の高温により生育は回復した。7月20日の葉数は平年並、茎数は並からやや多かったが、草丈は低かった。出穂期は平年より3～4日遅く、穂揃い日数は1日長かった。

8月下旬から9月上旬の日照は平年より多かったが、気温が低く経過したため、成熟期は平年より2～9日遅かった。登熟日数は平年に比べ「ななつぼし」、「ゆめぴりか」は長く、「きらら397」は並であった。成熟期の稈長は平年よりやや長く、穂長は平年並であった。

m^2 当たり穂数は平年に比べ「ななつぼし」が並、「きらら397」「ゆめぴりか」はやや多く、一穂粒数は「ななつぼし」が並、「きらら397」は少なく、「ゆめぴりか」は多かったことから、 m^2 当たり総粒数は「ななつぼし」が並、「きらら397」はやや少なく、「ゆめぴりか」は多かった。稔実歩合、登熟歩合、粒摺歩合は3品種ともほぼ平年並であった。精玄米千粒重は平年よりやや軽かったが、10 a 当たり精玄米重の平年比は「ななつぼし」が104%、「きらら397」が96%、「ゆめぴりか」が99%で、3品種の平均は100%であった。検査等級は平年並であった。

したがって、本年の作況は「並」である。

表4 水稻の生育

項目	品種名 ／年次	ななつぼし			きらら397			ゆめびりか			
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
生育期節	播種期 (月日)	4.15	4.14	1	4.15	4.14	1	4.15	4.14	1	
	移植期 (月日)	5.18	5.19	△ 1	5.18	5.19	△ 1	5.18	5.19	△ 1	
	幼穂形成期 (月日)	6.26	6.23	3	6.29	6.26	3	6.26	6.24	2	
	止葉期 (月日)	7.15	7.09	6	7.16	7.11	5	7.15	7.09	6	
	出穂期 (月日)	7.25	7.21	4	7.26	7.23	3	7.24	7.20	4	
	成熟期 (月日)	9.14	9.09	5	9.14	9.12	2	9.14	9.05	9	
	穂揃日数 (日)	8	7	1	8	7	1	9	8	1	
	登熟日数 (日)	51	49	2	50	51	△ 1	52	48	4	
	生育日数 (日)	152	148	4	152	151	1	152	145	7	
移植時	草丈 (cm)	15.0	13.6	1.4	15.0	12.9	2.1	15.3	13.5	1.8	
	葉数 (枚)	4.2	4.0	0.2	4.3	4.1	0.2	4.2	4.3	▲ 0.1	
	茎数 (本)	1.8	1.8	0.0	1.9	1.9	0.0	1.9	2.0	▲ 0.1	
	第1葉鞘高 (cm)	2.3	2.6	▲ 0.3	2.5	2.5	0.0	2.5	2.5	0.0	
	地上部乾物重 (g/100本)	4.73	4.64	0.09	4.75	4.42	0.33	4.66	4.78	▲ 0.12	
本田生育	葉数 (枚)	6月20日	7.9	8.3	▲ 0.4	8.3	8.6	▲ 0.3	8.2	8.6	▲ 0.4
		7月20日	10.4	10.3	0.1	11.0	11.1	▲ 0.1	10.8	10.7	0.1
		止葉葉数	10.4	10.3	0.1	11.0	11.1	▲ 0.1	10.8	10.7	0.1
	茎数 (本/m ²)	6月20日	473	621	▲ 148	619	725	▲ 106	543	683	▲ 140
		7月20日	745	734	11	879	785	94	849	813	36
	草丈 (cm)	6月20日	33.8	39.8	▲ 6.0	31.6	33.8	▲ 2.2	33.9	37.9	▲ 4.0
7月20日		75.9	81.3	▲ 5.4	67.5	73.2	▲ 5.7	75.8	79.9	▲ 4.1	
成熟期	稈長 (cm)	69.3	68.5	0.8	64.4	62.5	1.9	67.3	65.1	2.2	
	穂長 (cm)	16.9	16.8	0.1	16.2	16.6	▲ 0.4	16.9	16.8	0.1	
	穂数 (本/m ²)	683	677	6	750	724	26	770	746	24	
収量構成要素	一穂粒数 (粒)	49.1	48.6	0.5	40.4	43.3	▲ 2.9	45.2	42.7	2.5	
	m ² 当たり粒数 (×千)	33.5	32.9	0.6	30.3	31.2	▲ 0.9	34.8	31.7	3.1	
	稈実歩合 (%)	95.8	96.1	▲ 0.3	95.5	94.3	1.2	93.9	95.0	▲ 1.1	
	m ² 当たり稈実粒数 (×千)	32.1	31.7	0.4	28.9	29.4	▲ 0.5	32.7	30.1	2.6	
	同上比 (%)	101	100	1	98	100	▲ 2	109	100	9	
	登熟歩合 (%)	91.8	91.0	0.8	87.2	85.9	1.3	84.7	86.2	▲ 1.5	
	籾摺歩合 (%)	81.2	81.2	0.0	78.9	80.3	▲ 1.4	79.0	79.1	▲ 0.1	
	屑米歩合 (%)	2.1	1.9	0.2	3.3	2.4	0.9	3.2	3.0	0.2	
精玄米千粒重 (g)	21.7	22.6	▲ 0.9	22.6	23.3	▲ 0.7	22.3	23.0	▲ 0.7		
収量	藁重 (kg/10a)	617	645	▲ 28	555	598	▲ 43	581	622	▲ 41	
	精籾重 (kg/10a)	847	810	37	793	811	▲ 18	805	812	▲ 7	
	精玄米重 (kg/10a)	685	657	28	624	650	▲ 26	635	641	▲ 6	
	収量平年比 (%)	104	100	4	96	100	▲ 4	99	100	▲ 1	
	検査等級 (等)	1	1下	-	1下	1下	-	1下	1下	-	

注 1) 平年値は前7カ年の中、平成21年(最凶年)、平成26年(最豊年)を除く5カ年の平均値。

2) △は平年に比べ「早」、▲は平年に比べ「減」を示す。

3) 苗代耕種概要 育苗様式：成苗ポット苗

施肥量：成分量でm²あたり、床土 N 3.0g, P₂O₅ 7.2g, K₂O 3.0g、

置床 N 27.0g, P₂O₅ 34.0g, K₂O 18.0g

4) 本田耕種概要 栽植密度：25.3株/m² (33.0cm×12.0cm)、3本植

施肥量：成分量で10aあたり、N 8.0kg, P₂O₅ 9.7kg, K₂O 6.9kg, 堆肥1,000kg

5) 精玄米千粒重・精玄米重：網目1.90mm以上、水分15%換算

2) 秋まき小麦：良

事由：平年より1日早い9月14日に播種を行ったが、出芽期は平年並であった。越冬前の葉数は平年並であったが、出芽以降低温で経過したことから、草丈と茎数は平年を下回った。根雪始は平年より5日遅く、根雪終は平年より12日早く、積雪期間は平年より18日短い122日であった。雪腐病発病度は平年並で、越冬茎歩合は平年より高かった。4月中旬から5月下旬まで高温傾向で推移したため生育は良好で、出穂期は平年より5日早い6月1日となった。6月上旬が低温・寡照に経過したため、この間の生育はやや緩慢となったが、6月20日時点の草丈は平年より高く、茎数は平年並であった。出穂以降、低温傾向で経過したことから、登熟は緩やかに進み、成熟期は平年より4日遅い7月22日となった。出穂期は平年より5日早かったため、登熟期間は平年より9日長かった。成熟期の穂数は平年並で、稈長と穂長は平年を上回った。子実の充実は良好で、千粒重も平年を上回り、子実重は平年比150%と多収であった。リットル重と検査等級は平年並であった。

したがって、本年の作況は「良」である。

表5. 秋まき小麦の生育および収量

品 種 名		きたほなみ		
項 目	年次	本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	9.14	9.15	△ 1
出芽期	(月.日)	9.24	9.24	0
出穂期	(月.日)	6.01	6.06	△ 5
成熟期	(月.日)	7.22	7.18	4
越冬茎歩合	(%)	132.8	128.2	4.6
雪腐病発病度		10.9	12.1	▲ 1.2
葉数(枚)	平26年10月20日	4.3	4.4	▲ 0.1
草丈 (cm)	平26年10月20日	15.7	18.5	▲ 2.8
	平27年 5月20日	48.6	38.4	10.2
	平27年 6月20日	95.5	86.5	9.0
茎数 (本/m ²)	平26年10月20日	633	723	▲ 90
	平27年 5月20日	1304	1366	▲ 62
	平27年 6月20日	661	685	▲ 24
成 熟 期	稈長 (cm)	89	78	11
	穂長 (cm)	9.2	8.6	0.6
	穂数(本/m ²)	656	633	23
子実重	(kg/10a)	971	646	325
同上	平年比 (%)	150	100	50
リットル重	(g)	807	804	3
千粒重	(g)	44.2	39.2	5.0
検査等級	(等)	2中	2中	-

注 1) 平年値は、前7か年中、平成20年、22年(収穫年度)を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早を、▲は平年より減を示す。

3) 春まき小麦： 良

事由：融雪が早く、播種期は平年より5日早い4月14日であった。出芽期は平年より4日早い4月29日であった。出芽後、気温が高く経過したため初期生育は良好であったが、6月上旬が低温・寡照で経過したため生育はやや停滞し、出穂期は平年より1日遅い6月18日となった。6月20日時点の草丈および茎数は平年を上回った。成熟期の稈長と穂数はほぼ平年並であり、穂長は平年より長かった。7月下旬の降雨により、少程度の倒伏が発生した。成熟期は平年より4日遅い8月1日であった。登熟期間は平年より3日長く、子実重は平年比117%と多収であった。リットル重と千粒重は平年を上回り、検査等級も平年より高かった。

したがって、本年の作況は「良」である。

表6. 春まき小麦の生育および収量

品 種 名		春よ恋		
項 目 \ 年次		本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	4.14	4.19	△ 5
出芽期	(月.日)	4.29	5.03	△ 4
出穂期	(月.日)	6.18	6.17	1
成熟期	(月.日)	8.01	7.28	4
草丈 (cm)	5月20日	24.7	21.0	3.7
	6月20日	87.1	81.0	6.1
茎数 (本/m ²)	5月20日	958	686	272
	6月20日	842	708	134
成 熟 期	稈長 (cm)	94	92	2
	穂長 (cm)	9.6	8.7	0.9
	穂数(本/m ²)	523	509	14
子実重	(kg/10a)	573	490	83
同上	平年比 (%)	117	100	17
リットル重	(g)	799	791	8
千粒重	(g)	41.8	40.1	1.7
検査等級	(等)	2上	2中	-

注 1) 平年値は、前7か年中、平成22年、24年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早、▲は平年より減を示す。

3) リットル重は1リットル升による測定。

4) 大豆： やや良

事由： 播種期は平年より3日早い5月19日であった。播種後の適度な降雨により出芽が揃い、出芽期も平年より3日早い5月31日であった。6月上旬から7月上旬までの低温により生育がやや停滞し、開花期は平年より5日遅い7月16日であった。7月30日の強い降雨により全面的に倒伏した。成熟期は平年より2日遅い9月24日であった。成熟期における主茎長は平年より3.2cm短く、百粒重が平年より5.2g軽い32.6gであったが、主茎節数、分枝数および着莢数は平年を上回り、子実重は452kg/10a（平年比107%）とやや多収であった。屑粒率も平年より低く、検査等級は平年より高かった。

したがって、本年の作況は「やや良」である。

表7 大豆の生育および収量

品 種 名		ユキホマレ		
項 目 \ 年次		本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	5.19	5.22	△ 3
出芽期	(月.日)	5.31	6.03	△ 3
開花期	(月.日)	7.16	7.11	5
成熟期	(月.日)	9.24	9.22	2
主茎長 (cm)	6月20日	10.3	12.0	▲ 1.7
	7月20日	55.5	65.4	▲ 9.9
	8月20日	67.4	72.8	▲ 5.4
	9月20日	70.5	73.0	▲ 2.5
	成熟期	70.5	73.7	▲ 3.2
主茎 節数 (節)	6月20日	3.5	4.4	▲ 0.9
	7月20日	10.6	10.3	0.3
	8月20日	11.1	10.4	0.7
	9月20日	12.1	10.6	1.5
分枝数 (本/株)	成熟期	12.1	10.6	1.5
	7月20日	7.0	6.9	0.1
	8月20日	7.9	7.3	0.6
	9月20日	7.0	5.9	1.1
着莢数 (個/株)	成熟期	7.0	5.7	1.3
	8月20日	120	85	35
	9月20日	92	74	18
子実重 (kg/10a)	成熟期	92	73	19
	同上	452	424	28
同上	平年比 (%)	107	100	7
百粒重	(g)	32.6	37.8	▲ 5.2
屑粒率	(%)	1.0	3.6	▲ 2.6
検査等級	(等)	1	3上	-

注 1) 平年値は、前7か年中、平成22年、26年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早を、▲は平年より減を示す。

5) 小 豆： 良

事由： 播種期は平年より2日遅い5月26日であった。播種後は、適度な降雨により出芽が揃ったが、6月上旬の低温により出芽期は平年より3日遅い6月11日であった。6月上旬から7月上旬までの低温により生育がやや停滞し、開花期は平年より4日遅い7月26日であった。7月30日の強い降雨により全面的に倒伏した。成熟期は平年より16日遅い9月20日であった。成熟期の主茎節数は平年よりやや少なかったが、主茎長は平年より20cm長く、分枝数、着莢数も平年を上回った。百粒重は平年より1.6g重い14.2gであった。一莢内粒数が平年より多く、子実重は444kg/10a（平年比137%）と極多収であった。屑粒率は平年並であったが、検査等級は平年より高かった。

したがって、本年の作況は「良」である。

表8 小豆の生育および収量

品 種 名		エリモシヨウズ		
項 目 \ 年次		本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	5.26	5.24	2
出芽期	(月.日)	6.11	6.08	3
開花期	(月.日)	7.26	7.22	4
成熟期	(月.日)	9.20	9.4	16
主茎長 (cm)	6月20日	3.8	4.8	▲ 1.0
	7月20日	19.9	38.8	▲ 18.9
	8月20日	82.1	65.6	16.5
	成熟期	87.0	67.0	20.0
本葉数 (枚)	6月20日	1.2	1.5	▲ 0.3
	7月20日	8.4	9.7	▲ 1.3
	8月20日	9.4	13.0	▲ 3.6
主茎節数 (節)	成熟期	14.2	15.0	▲ 0.8
分枝数 (本/株)	7月20日	6.4	6.0	0.4
	8月20日	6.6	5.6	1.0
	成熟期	6.7	5.1	1.6
着莢数 (個/株)	8月20日	75	54	21
	成熟期	63	59	4
子実重	(kg/10a)	444	325	119
同上	平年比 (%)	137	100	37
百粒重	(g)	14.2	12.6	1.6
屑粒率	(%)	2.9	3.4	▲ 0.5
検査等級	(等)	2上	3中	-

注 1) 平年値は、前7か年中、平成20年、平成22年を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

6) ばれいしょ： 良

事由： 植付けは平年より1日早い5月8日に行ったが、萌芽期は平年より1日遅い5月28日であった。6月上旬は低温に経過したが、適度な降雨により、初期生育は平年をやや上回った。6月下旬から7月上旬まで平年より気温が低く経過し、開花始は平年より4日遅い6月26日であった。7月下旬に十分な降水量があったため、塊茎の肥大が促進され、枯凋期は平年より1日遅い8月30日であった。収穫期の株当り上いも数は平年より1.2個多く、上いも平均一個重は7g軽かった。上いも収量および中以上いも収量は共に平年比106%であった。3L以上のいもが少なかったため規格内いも収量は平年比111%と平年を上回った。でん粉価は7月20日には平年を1.6ポイント上回っていたが、7月下旬の降雨により低下し、14.0%と平年を1.1ポイント下回った。

したがって、本年の作況は「良」である。

表9. ばれいしょの生育および収量

品 種 名		男爵薯		
項 目	年次	本 年	平 年	比 較
植付期 (月.日)		5.08	5.09	△ 1
萌芽期 (月.日)		5.28	5.27	1
開花始 (月.日)		6.26	6.22	4
枯凋期 (月.日)		8.30	8.29	1
茎長 (cm)	6月20日	41.9	36.8	5.1
	7月20日	55.0	50.1	4.9
上いも数 (個/株)	7月20日	11.7	9.6	2.1
	8月20日	12.8	11.1	1.7
上いも平均一個重 (g)	7月20日	68	81	▲ 13
	8月20日	99	100	▲ 1
上いも収量 (kg/10a)	7月20日	3504	3388	116
	8月20日	5598	4871	727
でん粉価 (%)	7月20日	15.5	13.9	1.6
	8月20日	14.6	15.1	▲ 0.5
収 穫 期	上いも数 (個/株)	12.0	10.8	1.2
	上いも平均一個重 (g)	95	102	▲ 7
	上いも収量 (kg/10a)	5063	4777	286
	同上平年比 (%)	106	100	6
	中以上いも収量 (kg/10a)	4497	4243	254
	同上平年比 (%)	106	100	6
	規格内いも収量 (kg/10a)	4410	3989	421
	同上平年比 (%)	111	100	11
でん粉価 (%)	14.0	15.1	▲ 1.1	

注 1) 平年値は、前7か年中、平成22年、23年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早、▲は平年より減を示す。

3) 規格内収量は、生食用規格内 (M～2L:60～260g) の収量である。